

議長定例記者会見（平成 27 年 11 月定例会閉会后） 概要

日 時：平成 27 年 12 月 17 日（木）
午後 4 時 50 分～午後 5 時 8 分
会 場：議会第 1 会議室
出席者：福井章司議長、武藤恭博副議長

○議長からの発表

1 平成 27 年 11 月定例会の総括

(1) 一般質問について

23 人の議員が登壇したが、全体的にしっかりとした議論が行われていたように思う。（議員 1 人当たりの質問時間＝平均約 53 分）

(2) 常任委員会での審査について

大きな論点となったのが、文教福祉委員会が審査した「東与賀文化ホールの指定管理者」と経済産業委員会が審査した「富士大和森林組合の補助金返還」の 2 つの案件だった。特に補助金返還の案件については、一括返還をどのように達成できるかについて厳しい意見等が出され、附帯決議を付すべきではないかという議論にまで発展した。最終的には、附帯決議は付さず、今後の推移を注視していくことで議会としての責任を果たすことを確認した。

(3) 特別委員会の設置について

新たに「T P P の本市農業への影響等に関する調査特別委員会」を設置した。この特別委員会では、基本的には T P P を進める国等に対して所要の要請（意見書の提出等）をするための調査を行っていくことになる。

(4) 佐賀市議会の今後の予定について

①次回定例会：2 月 29 日（月）開会予定

②議員研修会：1 月 20 日（水）13：00～16：30

研修テーマ：議会基本条例の評価・見直し

講 師：三重県地方自治研究センター
上席研究員 高沖 秀宣 氏

○記者との主な質疑応答

【問】今回の定例会は、自民党系会派が 3 会派に分かれて初めての定例会となったわけだが、議会運営に何か影響はあったのか。

【議長】特徴的だったのは、自民市政会から提案された意見書案については、自民政新会や政友会を含めた 3 会派で議論が行われ、意思統一されていたことである。大会派だった頃に比べると、きめ細かなコミュニケーションがとられていたように思う。

【問】意見書案への再質疑に対し、それは国の問題だからということで答弁しな

かった場面があったが、それについての見解は。

【議長】本来、質疑に対しては即座に対応できるのがベストではあるが、自民党系3会派が協議をして提案したこともあり、予測して答弁を準備されていたと思うが、さらに深く質疑されたため、3会派の統一的な見解は出せず、また個人的な見解を出すわけにもいかず、このような展開となったと思う。

【問】前定例会の議長辞職に関する一連の流れを受けて、これまでの定例会と比べて、緊張感に違いはあったのか。

【議長】それぞれの議員が、一般市民や後援会等からいろいろな声を聞いたと思うし、また、新しくスタートした体制での定例会だったため、それぞれの議員が緊張感を持って臨んだと思う。私自身もそういう気持ちで臨んだし、会期中はずっと緊張感を持って対応させていただいた。

【問】今回、定例記者会見を始めることになったが、この会見の意義は。

【議長】佐賀市議会の情報公開度を高めていくことが最大の目標であり、そこに意義を感じている。議案の中身等は執行部に聞けばわかると思うが、議論の推移や各議員の対応、全体的な印象といったものを述べるという面でも、この会見に意義があると思う。

【問】今後、この会見をどういうものにしていきたいのか。

【議長】理想としては、記者の方たちとのコミュニケーションを大切にしていきたいと思っている。議会のあり方等についても、記者の方からの目線での意見を伺いながら意見交換を行い、質の高いものにしていければと思っている。